

大型クラゲの出現状況(国際フェリー調査結果等)について-第2報-

1. 大型クラゲの出現情報

(1) 東シナ海における調査船による目視調査結果^{※1}

①実施期間 令和7年6月18日～20日

結果 東シナ海西部の12地点での出現量(平均密度) 0.003個体/100m²。

〔 昨年同時期の結果(0.016個体/100m²)より少ない。 〕

②実施期間 令和7年7月26日～30日

結果 東シナ海西部における定点での調査は荒天のため中止。航海時に目視観測を30地点で実施し、出現数は0個体。

〔 昨年同時期の結果:航海時の目視観測の出現数、2個体より少ない。 〕

(2) 対馬海峡における国際フェリー(博多-釜山航路)による目視調査結果^{※1}

①実施期間 令和7年6月17日

結果 対馬海峡西水道で2個体(傘径40～50cm)を目撃した。西水道における出現量(平均密度)は0.0002個体/100m²です。対馬海峡東水道では目撃されなかった。

〔 昨年同時期の結果(対馬海峡で目撃されなかった)より、出現時期は早い。 〕

②実施期間 令和7年7月1日

結果 対馬海峡西では目撃されなかった。

〔 昨年同時期の結果(対馬海峡での出現量:2729個体、平均密度0.094個体/100m²)より、出現量は少ない。 〕

③実施期間 令和7年7月15日

結果 対馬海峡西水道で25個体(傘径30～50cm)、東水道で29個体(傘径30～60cm)を目撃した。出現量(平均密度)は西水道で0.0028個体/100m²、東水道で0.0013個体/100m²です。

昨年同時期の結果（対馬海峡での出現量：1414個体、平均密度0.046個体／100m²）より、出現量は少ない。

④実施期間 令和7年7月29日

結果 対馬海峡西水道で24個体（傘径40～80cm）、東水道で8個体（傘径30～80cm）を目撃した。出現量（平均密度）は西水道で0.0030個体／100m²、東水道で0.00036個体／100m²です。

昨年同時期の結果（対馬海峡での出現量：290個体、平均密度0.0095個体／100m²）より、出現量は少ない。

※1. 国立研究開発法人水産研究・教育機構及び国立大学法人東京海洋大学・長崎大学、学校法人東海大学により構成される「大型クラゲ国際共同調査共同研究機関」が実施。

(3) 日本沿岸水域における出現の確認^{※2}

- ・令和7年6月17日から6月23日の期間において、長崎県対馬市厳原町（20個体、傘径10～20cm）、長崎県対馬市美津島町（2個体、傘径20cm）、長崎県対馬市豊玉町（2個体、傘径20cm）、長崎県五島市玉之浦町（40～50個体、傘径50cm以下）、長崎県五島市玉之浦町（30～50個体）、長崎県平戸市（5～10個体、傘径30～50cm）の定置網で出現を確認した。：対馬の定置網では6月17日が今年初めての出現。
- ・令和7年6月26日から7月9日の期間において、長崎県対馬市厳原町豆敷（2個体、傘径50～60cm）、長崎県対馬市峰町志越（3個体、傘径20～30cm）、長崎県対馬市豊玉町（3～5個体、傘径25～50cm）、長崎県壱岐市勝本町（1個体、傘径30cm）の定置網で出現を確認した。
- ・令和7年7月7日から7月18日の期間において、島根県松江市島根町（1～2個体、傘径不明）、島根県益田市高津町（1個体、傘径30cm）、島根県隠岐の島町（6個体、傘径40～70cm）、島根県出雲市（10～30個体、傘径30cm）の定置網で出現を確認した。：島根県の定置網では、この期間が今年初めての出現。
- ・令和7年7月17日に山口県長門市（8個体、傘径30～50cm）の定置網で出現を確認した。：山口県の定置網では7月17日が今年初めての出現。
- ・令和7年7月26日から7月28日の期間において、山口県長門市（5個体、傘径30～70cm）の定置網で出現を確認した。

※2. NPO 法人水産業・漁村活性化推進機構の委託を受けて、一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた情報による。

2. 出現動向の概要

東シナ海の調査船調査の6月、7月の出現量は昨年よりも少なく、近年は低い傾向が続いてい

ます。対馬海峡（博多～釜山間）のフェリー目視調査では、6月中旬に対馬海峡西水道で、やや小型（傘径40～50cm）の2個体を確認し、昨年より出現時期が早い状況でした。7月上旬の調査では、出現は確認できませんでしたが、7月中旬の調査では対馬海峡西水道で25個体、東水道で29個体を確認し、7月下旬の調査では対馬海峡西水道で24個体、東水道で8個体を確認し、7月中旬以降、継続して小規模の出現が確認されています。また、日本沿岸水域においては、6月中旬に対馬沿岸、五島列島周辺、平戸沿岸の各地先で大型クラゲが確認され、対馬沿岸では7月上旬にかけて出現が確認されています。また、7月上旬から7月下旬に山口県沿岸、島根県沿岸で初確認され、分布が東方に広がっています。韓国沿岸の出現状況は、7月下旬まで平年並みの出現率で推移しています。以上のことから、6月下旬以降、韓国に近い対馬海峡西水道と九州に近い対馬海峡東水道の両方向から日本海へ少量の大型クラゲが断続的に流入していると考えられます。対馬海峡西水道から流入した大型クラゲの多くは日本海の沖合域を北上し、日本沿岸にはほとんど接近しないと考えられますが、一部は日本沿岸に達すると考えられます。また、対馬海峡東水道から流入した大型クラゲの一部は日本沿岸を沿って東に輸送され、6月下旬から7月下旬かけての山口県沿岸、島根県沿岸での出現に至っていると考えられます。対馬周辺での目撃情報を基に日本海における移動予測計算を行った結果では、対馬海峡東水道から流入した大型クラゲの一部が日本沿岸に沿って北上し、8月上旬以降に能登半島に、9月上旬以降に津軽海峡に達すると考えられます。

3. 今後の調査計画

日本海への大型クラゲの流入量の変動把握と、日本海に入った大型クラゲの動向に注視し、引き続き日本周辺海域における大型クラゲの出現状況のモニタリング※3、出現状況に関する情報提供※4を行ってまいります。

※3. 主な大型クラゲ出現状況調査の実施予定（8月中旬～9月上旬）

（国際フェリーによる目視調査）

令和7年8月中旬：博多－釜山間の国際フェリーによる目視調査

令和7年9月上旬：博多－釜山間の国際フェリーによる目視調査

（調査船による分布調査）

令和7年9月上中旬：日本海中部海域大型クラゲ分布調査

※4. 大型クラゲ出現状況調査の結果については、以下でお知らせしております。

国立研究開発法人水産研究・教育機構

大型クラゲ関連情報 URL：

https://www.fra.go.jp/shigen/marine_environment/kurage/kurage.html

本件照会先（担当者）：

本部 研究戦略部 清水 TEL 045-277-0257

水産資源研究所 水産資源研究センター 海洋環境部 奥西 TEL 025-228-0587